

従属 LU および DLUR/DLUS

内容

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[DLUR/DLUS の基礎](#)

[DLUR/DLUS セッション サービス拡張](#)

[DLUR/DLUS ルーティング サービス](#)

[DLUR/DLUS サンプル パイプ アクティベーション](#)

[自動ネットワーク シャットダウン](#)

[SSCP テイクオーバー：ネットワーク稼働時](#)

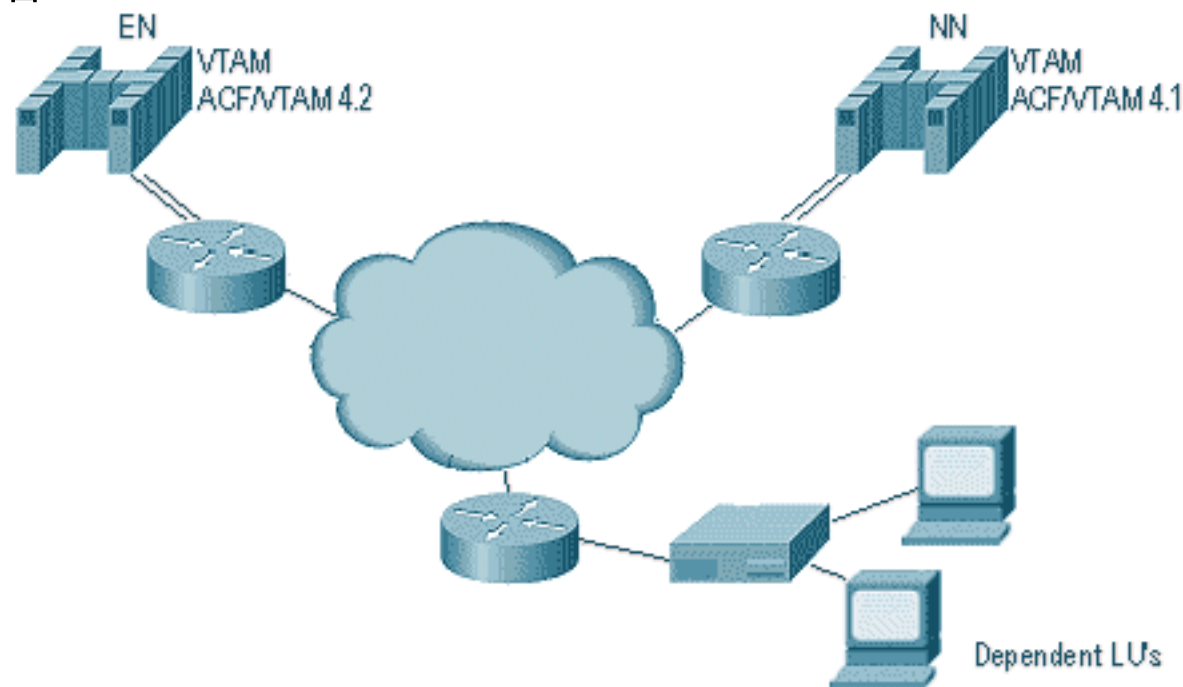
[SSCP テイクオーバー：停止時](#)

[SSCP テイクオーバー：テイクオーバー実行時](#)

[関連情報](#)

概要

図 1：



当初、拡張ピアツーピアネットワークング(APPN)は、論理ユニット(LU)6.2接続を使用したピアツーピア接続???セッションのみをサポートしていました。ただし、APPNは、ネットワークが従来のシステムネットワークアーキテクチャ(SNA)トラフィック(LU 0、LU 1、LU 2 など

)をサポートできる場合にも実行可能です。

APPN では、セッションのプライマリ エンドとセカンダリ エンドという概念はありません。セッションの開始を選択するエンドポイントがプライマリになり、バインドを送信します。しかし、レガシー SNA トラフィックの場合、セカンダリ エンドはセッションを開始するために仮想記憶通信アクセス方式 (VTAM) を要求します。APPN では、バインドを送信できないノードの概念はありません。したがって、バインドを発光できない従来のセカンダリ LU に対する特別なサポートが必要です。

従属 LU リクエスタ/サーバ (DLUR/DLUS) は、APPN ネットワークの従属 LU の問題を解決します。DLUR/DLUS では、サーバは VTAM 4.2 で実装され、リクエスタはネットワーク内のネットワーク ノード (NN) またはエンド ノード (EN) になることができます。

前提条件

要件

このドキュメントに特有の要件はありません。

使用するコンポーネント

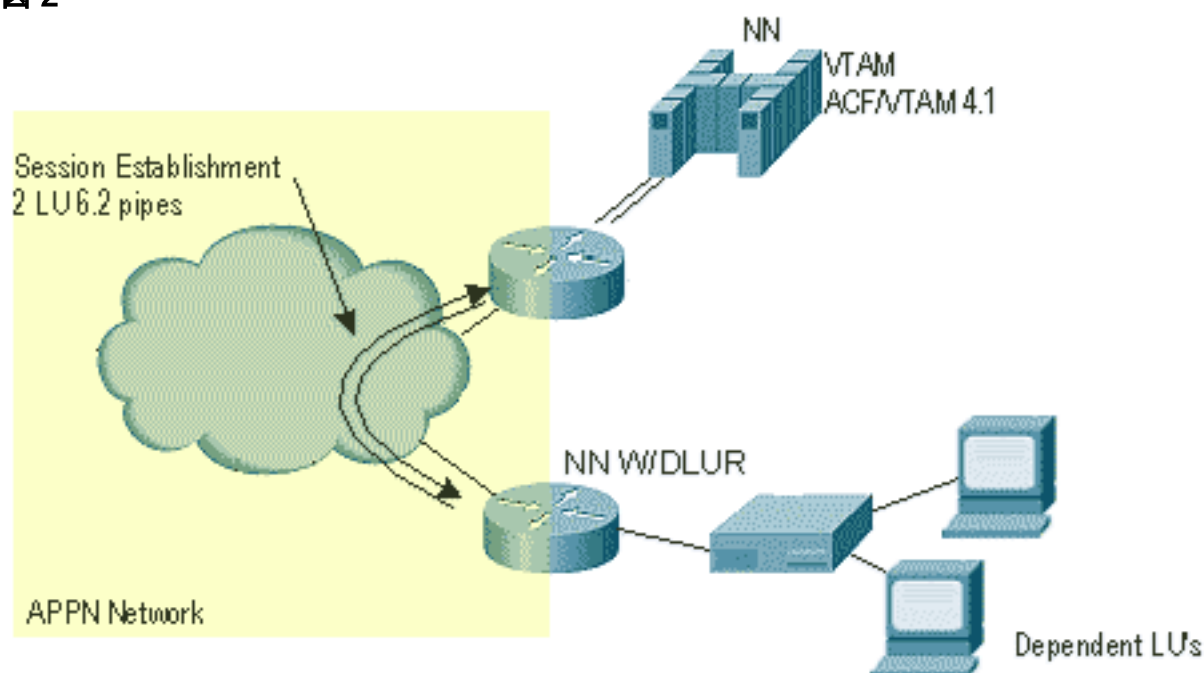
このドキュメントの内容は、特定のソフトウェアやハードウェアのバージョンに限定されるものではありません。

表記法

ドキュメント表記の詳細は、「[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)」を参照してください。

DLUR/DLUS の基礎

図 2



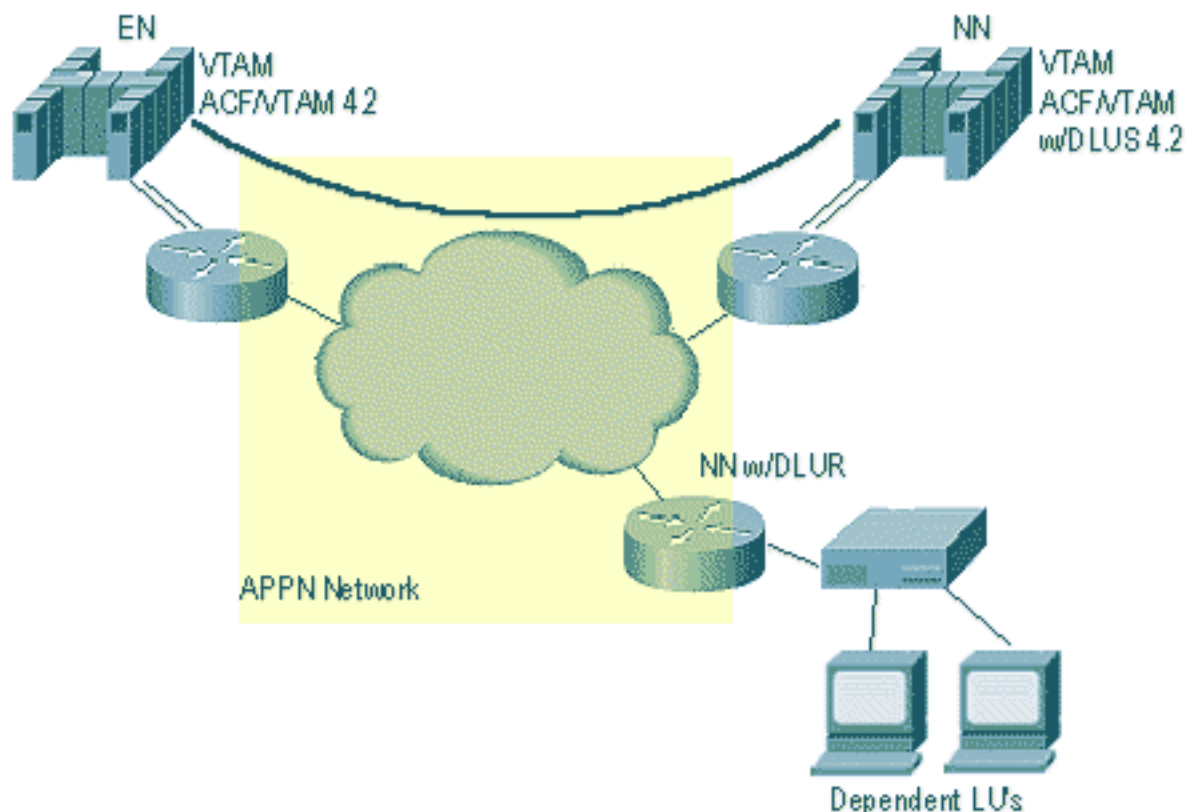
LU 6.2 セッションのペアは、DLUR と DLUS 制御フロー (アクティブ化 LU、非アクティブ化 LU、アクティブ化物理ユニット (PU)、非アクティブ化 PU、LOGON、INITIATE など) の間で確立され、トラフィックは DLUS と DLUR 間のこれらのセッションを経由して流れます。DLUR は、適切なリソースにメッセージを渡します。

セカンダリ従属 LU (DLU) は、開始要求を DLUR に送信することでセッションを開始できます。DLUR は、それを LU 6.2 パイプの 1 つに送ります。

セッション要求が流れたら、DLUS と DLUR との通信は完了です。

DLUR/DLUS セッション サービス拡張

図 3



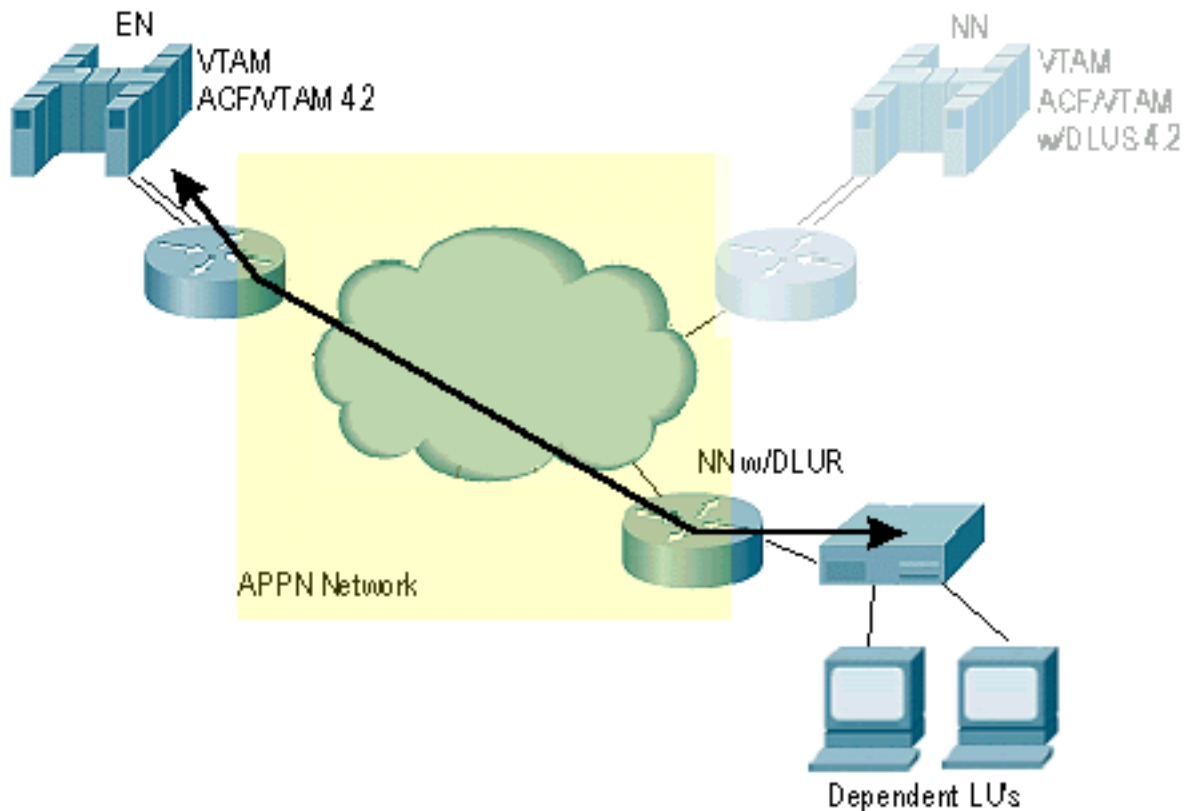
VTAM/DLUS がセッション要求を受信すると、VTAM はアプリケーションの場所を特定し、CDINIT-LOCATE 要求をアプリケーション ホストに送信して、バインドをセカンダリに送信するよう要求します。

APPN VTAM のこのサポートは、セッション サービス拡張として知られ、レガシー SNA セッション サービスが APPN に登録されたことを示します。

セッション サービス拡張は、セッションパートナーが利用可能になるまでサードパーティ セッション開始およびキューイングをサポートするのに加え、セカンダリによって開始されたセッションをサポートします。

DLUR/DLUS ルーティング サービス

図 4

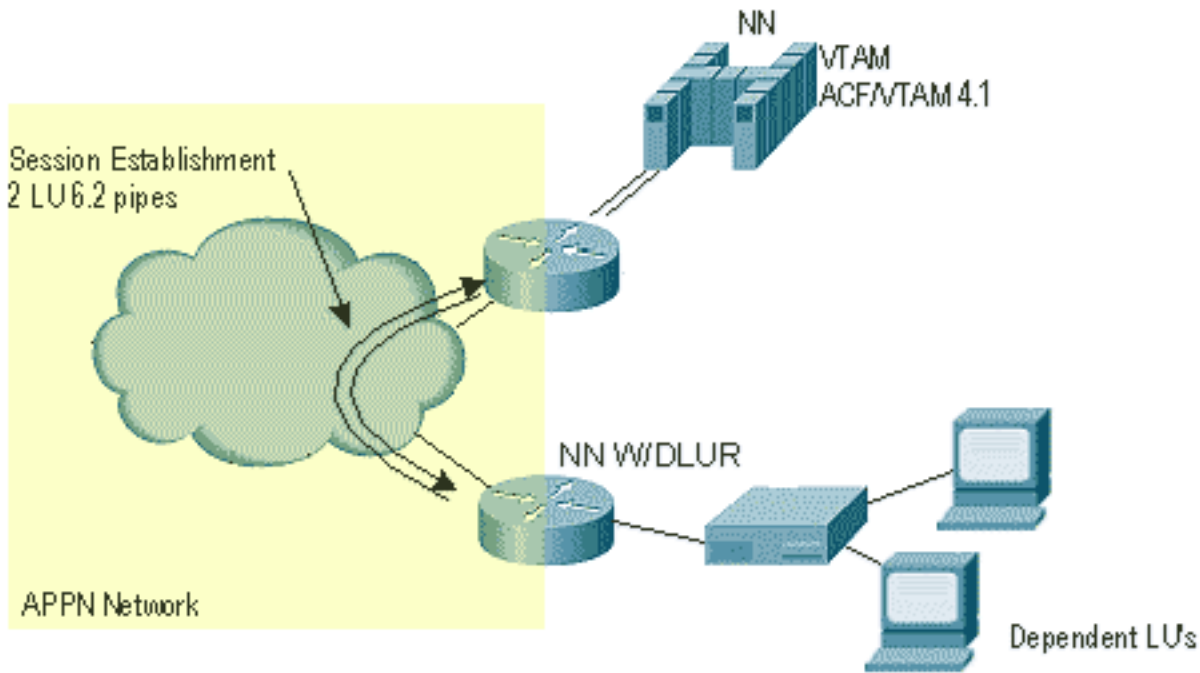


レガシー LU にバインドを送信するようにアプリケーションに通知されたら、バインドは APPN ネットワークを経由して送信されます。これは、カプセル化されません。レガシー SNA トラフィックおよび APPN トラフィックは同じ SNA ヘッダーを使用し、APPN ネットワークで共存できます。

VTAM はセッション開始を認識しますが、セッショントラフィックは VTAM またはその接続されているチャネル インターフェイス プロセッサ (CIP) を経由する必要はありません。APPN アルゴリズムを使用して、アプリケーション ホストにネットワーク サーバ機能を提供する NN は、適切なサービス クラス (CoS) を提供するネットワークを通じて最適パスを選択します。

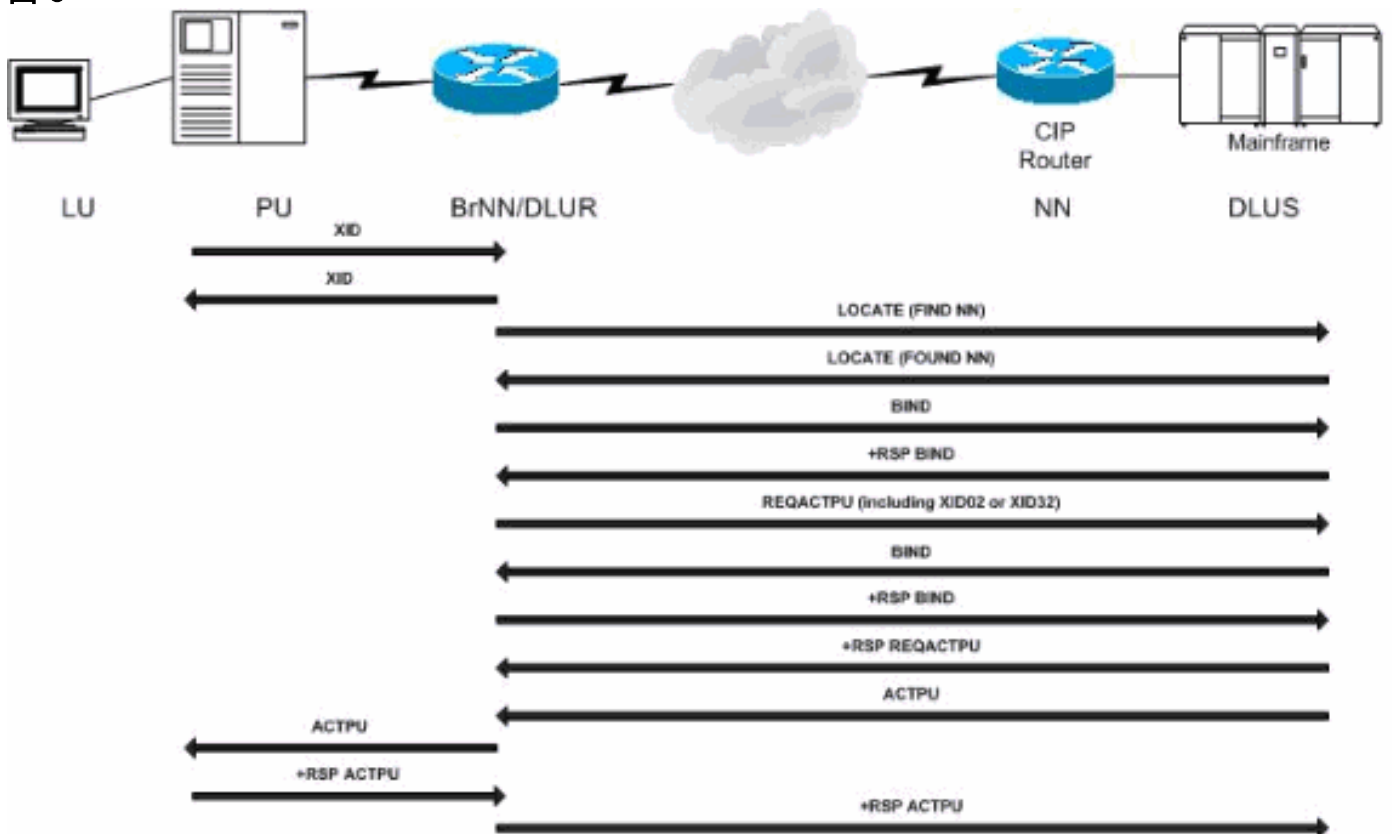
DLUR/DLUS サンプル パイプ アクティベーション

図 5 :



交換識別子 (XID) を受信すると、DLUR は、物理ユニット (REQACTPU) をアクティブ化する要求を DLUS に送信することで、システム サービス制御ポイント (SSCP) に対してそのサービスが要求されていることを通知します。続けて、DLUS は ACTPU 要求を発行します。

図 6



このフローでは、ブランチ ネットワーク ノード/DLUR (BrNN/DLUR) はダウンストリーム PU から XID を受信し、PU は DLUS から SSCP サービスを要求するように DLUR に通知します。すべての XID02 または XID32 で ACTPU 要求ビットが設定され、REQACTPU が送信されます。「パイプ」がアクティブでない場合、最初に「検索」され、バインド要求が送信されてパイプが開始されます。

DLUS は、肯定応答 +RSP REQACTPU と、続けて ACTPU 要求を返します。

自動ネットワークシャットダウン

DLUR は、ネットワーク制御プログラム (NCP) によって提供される ANS サポートと同様の自動ネットワークシャットダウン (ANS) サポートを提供します。ANS = CONT が指定されて PU がアクティブ化される場合、既存の LU-LU セッションはパイプ終了時に保持されます。

DLUR は、従属デバイスからの SSCP-PU/LU トラフィックを拒否します。

従属デバイスの以降のアクティブ化に応じて、DLUR は LU-LU セッションを終了する場合があります。

SSCP テイクオーバー：ネットワーク稼働時

図 7

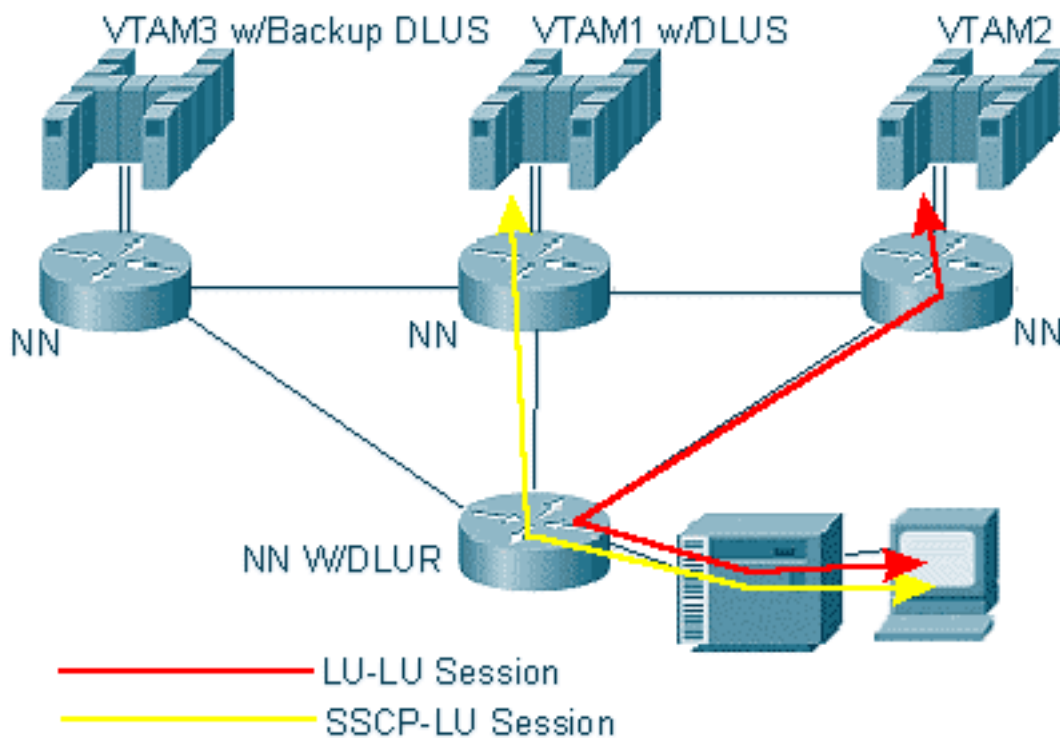


図 7 では、すべてのセッション (SSCP-PU、SSCP-LU、および LU-LU) が確立され、データが LU-LU セッションで流れています。

SSCP テイクオーバー：停止時

図 8

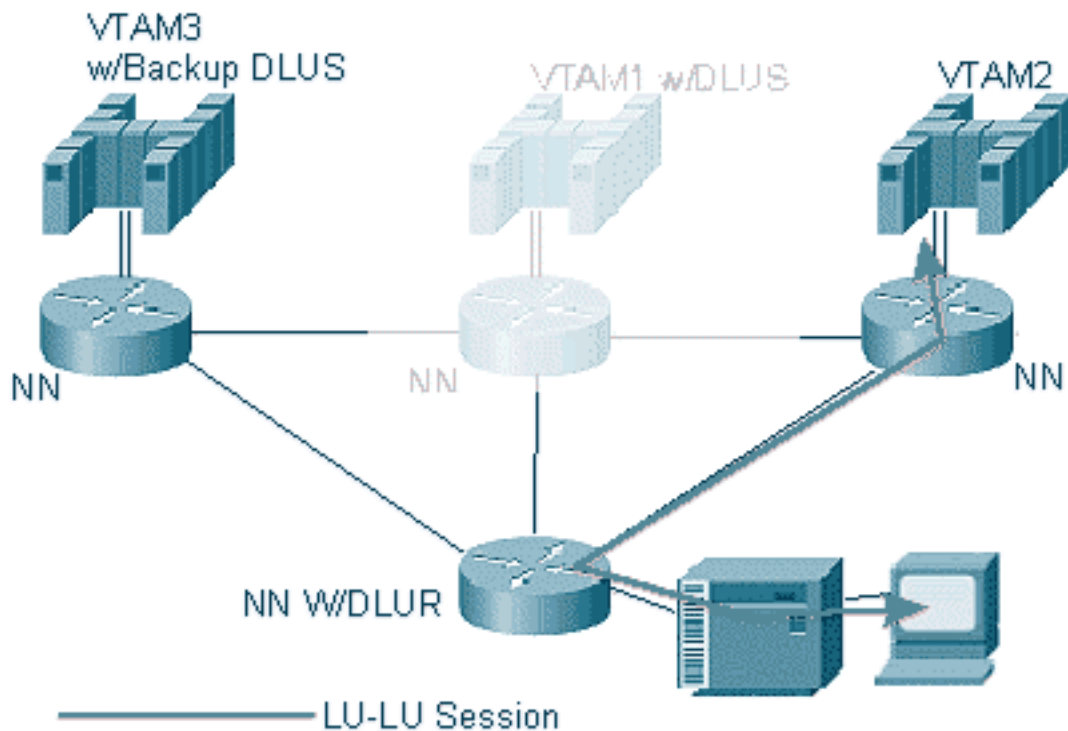


図 8 では、ネットワーク停止が発生し、DLU-DLUR パイプが破壊され、SSCP-PU および SSCP-LU セッションが中断されます。

LU-LU セッションは、影響を受ける Cisco CIP NN ルータを経由しないため継続します。

SSCP テイクオーバー : テイクオーバー実行時

図 9

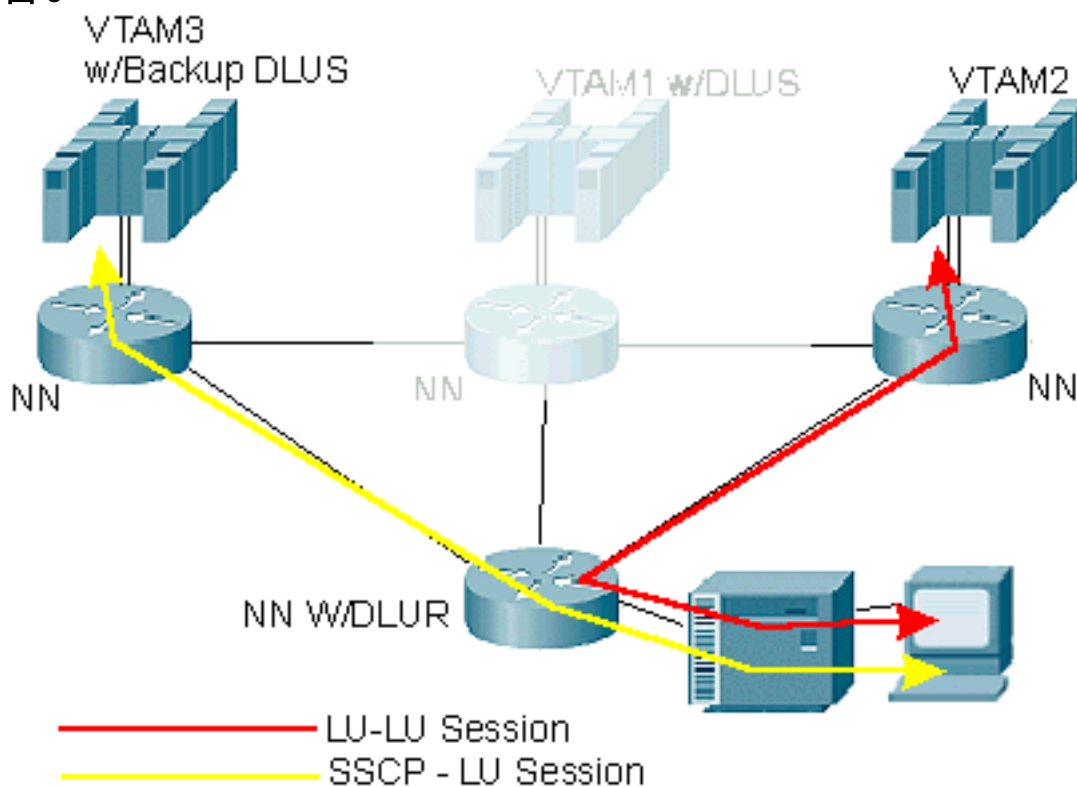


図 9 では、バックアップ DLUS はテイクオーバーを開始し、パイプが確立され、リソースがアクティブ化され (ACTPU、アクティブ化論理ユニット [ACTLU])、DLUR が ACTLU 応答でセッシ

セッション情報 (プライマリ論理ユニット [PLU]、LU1) を送信します。

セッションは、新しい SSCP を通じて再確立されます。後続の LU-LU セッションにより、DLUR から VTAM3 へのセッション認識が発生します。

リカバリが VTAM1 で発生した場合、ギブバックが発生し、SSCP-PU および SSCP-LU セッションは VTAM3 で非アクティブ化され、VTAM1 によって再アクティブ化され、LU-LU セッションを中断せずに元の設定を復元します。

関連情報

- [技術サポート](#)
- [製品サポート](#)
- [テクニカルサポート - Cisco Systems](#)